

改組を振り返って

平成7.5.1～9.4.30 所長 高橋 保

防災研究所が50周年を迎えることになり、その中に身を置く一員として、この長きにわたって陰に陽に力添えを頂いた諸先輩をはじめ、関係各位に厚く感謝する次第です。防災研究所のように目的を名称に明確に反映させた研究所にとって、50年という年月は決して短いとは言えないでしょう。50年の間には、内外を問わず様々な災害が起こり、防災研究所のスタッフもそれらの調査等を通して、災害科学・防災学の研究に勤しみ、研究成果が実地に生かされて今日の災害減少に役立ってきたものと信じています。しかしながら、私が災害科学総合研究班の運営に関わっていた期間に受けた文部省での度重なるヒヤリングにおいて、災害科学研究の具体的成果や、研究におけるブレークスルーは何か聞かれ、明快な回答に難渋したのも事実です。

防災研究所は災害の新たな局面に対応して、既存部門の隙間を埋める形で新しい部門を新設しながら発展して来ましたが、10年ほど前から大学の組織の見直し・改組がいわば流行のようになり、防災研究所においても時限部門の転換問題も絡めて改組案が検討されて来ました。そのような状況下で、阪神大震災直後の平成7年5月から、はからずも所長の重責を担うことになり、改組の実現が私の重大使命となりました。改組案の骨子は5大部門・5研究センターへの整理統合、全国共同利用化、技術室の創設であり、一応、現在の体制として実現しています。

改組へ向けての折衝途上にいくつかの問題に遭遇する事になりました。一つは、京都大学から、防災研究所の他に、原子エネルギー研究所のエネルギー理工学研究所・大学院エネルギー科学研究科への改組要求が出されており、一大学からの二つの改組要求を同時に実現するのは難しいと言われたこと、第二に、神戸大学から阪神大震災を動機として都市安全研究センターの新設要求が出ていることが明らかとなり、互いの性格をより明確にすることが求められたこと、そして第三に、全国共同利用化への必然性がないのではないかと言われたこと等です。第一の問題に関しては、原子エネルギー研究所と防災研究所の改組の性格が相当異なっていたことや、改組が阪神大震災よりも以前から検討されていたことが幸いしたと思っています。第二の問題に関しては、私と経理部長、事務部長が神戸大学に赴き、両立できるように話し合いを行いました。第三の問題はなかなか手強く、周りにも共同利用化は得策ではないとの意見の人もいましたが、災害科学総合研究班のネットワークを生かした防災学研究所のCOEの必要性と、防災研究所が従来から災害科学研究の拠点として名実共に果たしてきた役割を強く訴えることによって何とか理解を得ることができました。

文部省で要求が認められた後の、法制局の段階で、研究所の名称は防災研究所のままで行きたいとの案は比較的スムーズに認められましたが、研究所の設置目的に関して、何度ものやりとりの後、「災害に関する学理の研究及び防災に関する総合研究」ということで落ち着きました。従来の理工学的研究に加えて、災害の人文・社会的側面を重視した総合研究をするという改組の眼目の反映です。

このようにして、改組はすべて要求通りとは参りませんでしたが、何とか多少の純増定員を含めて、上位ポストの大幅増の形で実現しました。防災研究所は京都大学ではもちろんのこと、全国でも有数の規模の研究所となりま

した。しかし、部門等への定員配置の段階で大学の人事当局と考への齟齬が生じ、一部にいびつな人員構成の部門等が生じたことは残念に思っています。改組の後には、当然、研究所の諸規程等の全面的見直しが必要となりました。教授及び助教授の任用に関して、公募を原則とすることにしたことは、時代の流れや共同利用の研究所であることから必然と言えますが、防災研究所にとっては画期的なことであったと思います。

改組に関して、私の印象に強く残っているのは以上のような経過ですが、折衝段階での事務部の皆さまの文字通り寝食を忘れた献身的な努力は特筆に値すると思います。宇治地区の事務部が統合された今日、防災研究所ではさらなる改組を見込んだ将来計画が検討されていますが、いざというとき、以前と同様の協力が得られるのか多少の不安もっています。

防災研究所は改組により、創立45周年で新たな誕生を果たしました。50周年の今日、やっと5歳になったとも考えられ、今後、たくましい青年へと成長して行かなければなりません。改組への折衝に際して、防災研究所の活躍が世間に見えないとの批判も受けました。本文の冒頭に書きましたヒヤリングでの質問と同根であろうと思います。防災学研究的に進むべき方向を見定め、すばらしい研究を強力に推進し、成果の情報発信に心がけて行かなければなりません。大学の独立行政法人化が必須とされている中で、今後の進むべき道を決して誤らないようにしなければなりません。